

ワシントンDCで働く女性の会(J-WIP)第6回会議報告

ワシントン日本商工会企画担当理事
安井真紀

去る11月28日、ワシントンDCで働く女性の会(Japanese Women in the Professions in Washington D.C. (J-WIP))の第6回会議をワシントン市内で開催しました。



今回、講師として、J-WIPメンバーでもある米国公認会計士(ジョージア州・バージニア州・DC)の金田かえで氏と米国弁護士(ニューヨーク州)小山理留氏をお迎えし、「脱税?節税?日米のタックスに関する感覚の違い---タックスヘイブンとパナマ文書の实在理由---」と題した勉強会形式の講演会を実施しました。

講師のお二人は、米国大手会計事務所で長年国際税務を担当されたご経験を踏まえ、日米の税制の違い、企業のタックス・プランニング、移転価格税制、パナマ文書の波紋、トランプ次期政権の税政策等について分かり易く解説をしていただきました。特に、昨今の欧米における多国籍企業の事象について、専門家の視点から問題点を丁寧にご説明頂き、税務の奥深さと面白さを教えて頂きました。当日は、商工会会員を含む、男性・女性27名の方々がご参加されました。

その後今年のJ-WIP活動の総括を行い、来年の活動に向けたメンバーの思いを共有しました。

【参加申込先・お問い合わせ先】

J-WIPでは引き続きメンバーを募集しております。ご関心のある方、以下連絡先までメールでご連絡ください。お待ちしております。

企画担当理事: 安井 (m-yasui@jbic.go.jp / mkysi.makimaki@gmail.com)

商工会会員: 酒向 (yuki.sako@klgates.com)